

第7回（2025年）ハンガリー病理解剖トレーニングコースに参加して 野内直子

はじめに

鳥取大学医学部附属病院病理部の野内直子と申します。私は2025年8月に開催されました第7回ハンガリー病理解剖トレーニングコースに参加いたしました。トレーニングコースのこと、期間中の過ごし方など、私が感じたことについて以下に記載いたします。長文になりましたので、目次を作り、必要なところを参照いただければと思います。これから参加を考えておられる先生方の参考になれば幸いです。

目次

- スケジュール
- 解剖時
- 待機場所など
- 担当して下さった先生方、テクニシャンについて
- 注意事項
- 持ち物
- ホテル（AKEAH Verdi Budapest）
- ホテル周辺
- 観光、交通事情、その他
- 個人的に持っていく方が良さそうなもの
- 最後に

■スケジュール

月曜日～金曜日に合計9体の病理解剖を行い、英語で解剖報告書*を記載、当日中に指導教官にメールで送付します。例年と異なり、月曜日の午前中に1時間のレクチャーの後に解剖を1体*、午後に1体*の剖検を行いました。金曜日は午前に1体剖検を行い、午後はレクチャーと UNICUM の工場見学ツアーがありました。

日曜日の夜にはレセプションディナー（図1）、木曜日夜には先生方とのディナー（図2）がありました。

今回はコース開始2日ほど前に、ゼンメルワイス大学から主要臓器の切り出し方についてのレクチャー動画の配信がありました。事前に見て、少しいメージしながら当日を迎えられて良かったです。

*解剖報告書：事前にフォーマットが渡されますが、ハンガリー語の Word ファイルのようでスペルチェックが十分に使いません。私は自分で別の Word に記載してスペルチェックしたものをコピーしていました。

*月曜日は非常にタフで、指導教官（Várkonyi 先生）もご存知の様子でした。午前の症例の剖出は Izsó（イジョ）さんが、臓器の切り出しは Várkonyi 先生が見せながら行ってくださいました。臓器の所見いつ

いては質問に答えながら進めるスタイルでした。

*月曜日の午後は剖出も切り出しも参加者がメインで行っています。午前午後ともに解剖室で先生とディスカッションを行いました。



(図1) レセプションディナー。右前が Kiss 教授。ホテル 1 階のレストランにてハンガリー料理をいただきました。



(図2) 木曜日のディナー。イタリア料理のビュッフェ形式のレストランにて、みんなで地下鉄に乗って向かいました。

■解剖時

剖出はテクニシャンの Izsó さんと参加者 (1 人あるいは 2 人)で行い、残りの人で臓器の切り出しと検

索を行います。1人は所見記載と写真撮影をしました。今回は東京女子医大の吉田先生が途中まで参加していただきました。私たち参加者は3人でしたが、吉田先生には写真撮影や記録をしていただいたほか、以前の参加時を踏まえたアドバイスをたくさんいただきました。吉田先生の帰国後は、1人が剖出、1人が切り出し、1人が所見の記録と写真撮影という感じで分担していました。

解剖時の服装は、上下スクラブ+長袖の長白衣を着て、袖を腕まくり+袖なしのプラスチックエプロン、というスタイルが現地方式のようです。アイシールドは先生方と Izsó さんは個人のものを使用していましたが、マスクは着けておられませんでした。足元はシューズカバーのみでした。私は感染対策が気になったので、サージカルキャップ+N95 マスク+アイシールド、スクラブ+長袖防水プラスチックエプロン+手袋2重、内履き用靴+シューズカバーのスタイルでした (図3)。

剖出時は、基本的には解剖用のナイフ (Izsó さんの私物と思われます) を使用します。剖出時のテクニックについては、週のはじめの方はその都度見せていただきながら進めるスタイルでした。慣れてくると横で見守ってくださっています。剖出が難しい箇所については Izsó さんが変わってくださいます。

剖検時は先生方は先生方で写真を撮影されます。ただ、写真のデータはいただけるときといただけないときがあるので、自分たちで撮影していたほうが良いと思われました。

組織学的に検討が必要な臓器については凍結標本を作ります。概ね執刀開始後2~2.5時間ほどで組織の回収にいられていました。脳については凍結標本の作製が難しく、得られる情報が少ないため基本的に凍結標本は作らないと Székács 先生が話されていました。標本作製数は症例や先生ごとにばらつきが大きかったです。作製後はバーチャルスライドとなって、待機場所のパソコンで見ます。私達は初日に Várkonyi 先生の ID とパスワードを教えていただき、5日間ともその ID でログインしました。



(図3) 9症例目の解剖前の集合写真

左から Glasz 先生、私、類家先生、中村先生、海外研修委員会の Mernyei 先生、Izsó さん

■待機場所など

毎朝の集合する部屋はパソコンがたくさん置いてある組織学実習室のような部屋でした (図4)。パソ

コンのキーボードを寄せて自分のパソコンを置くような形になります。SE タイプのコンセントプラグがあればパソコンの電源が接続可能です。Wi-Fi は大学のゲスト Wi-Fi に加えて、eduroam が使えました。私の所属大学は eduroam が使えたため、スムーズに使えました。

部屋の鍵は初日に秘書さんから渡されますので、代表者がそれを最終日まで管理することになります。パソコン等は解剖中は待機部屋に置いていましたが、パスポートなどの貴重品は解剖室に身に着けて持ち込んでいました。

着替えは待機部屋で行います。男女の参加者がいたので、交代で着替えました。

昼食は 5～10 分ほど歩いた食堂まで移動します。混んでいると提供まで少し時間がかかります。食事は炭水化物多め、量多めでした。外出の際は一度スクラブから私服に着替え、食事を終えて戻ってきたら再びスクラブに着替えます。往復と食事の時間、着替えを含めるとゆっくりする時間はあまりありませんでした。

解剖室の前室？にロッカーがあります。ロッカー自体の鍵はかかりませんが、部屋の鍵は夕方には施錠されるようでした。初日にマスクやガウンなど自分で持参したものはすべてロッカーにもっていきました。



(図 4) 待機部屋にて、月曜日午前のレクチャー中の様子。

■担当して下さった先生方、テクニシャンについて

- ・ Kiss 教授：男性。今回のコースディレクター。時間があれば待機部屋を覗いて様子を伺ってくださり、困っていることはない？などお気遣いをたくさんいただきました。
- ・ Várkonyi 先生：男性。私たちと年齢が比較的近かった(と勝手に思っています)ので、ディスカッションが非常にしやすかったです。初日で不慣れなこともあり、剖出や切り出しに戸惑いましたが、実際に見せて示してくださることも多かったです。初日に居残りしていた私達をベトナム料理屋さんに連れて行ってくださり、解剖のことだけではなくハンガリーのことなどたくさんお話していただきました。
- ・ Kenessey 先生：男性。私たちが引き続き不慣れなこともあり、解剖後にホワイトボードを使って所見

のまとめをしてくださいました。少し強面です声も大きめですが、ゆっくり分かりやすく話してくださいます。

・Kramer 先生：女性。器具の使い方が非常に厳密で、効率的な切り出し方をたくさん教えてくださいました。力を入れて頑張って切り出しするのではなく、以下に自然に楽に切り出すか、というコツをたくさん教えていただきました。解剖後は解剖室でまとめのディスカッションをした後、待機部屋に戻ってきて先生がホワイトボードに書き出してくださるスタイルでした。

・Székács 先生：女性。以前、日本に留学されていたご経験があるため日本語が話せます、普通にペラペラです。解剖時は基本的には英語でやりとりをしました私たちがわからないときのみ日本語で教えてくださいました。この日は早めに報告書が送れたので、修正案を送り返してくださいました。解剖後などにはハンガリーでの子育てなど病理解剖以外の話を日本語で話してくださいました。

・Glasz 先生：男性。担当症例の臨床事項がとても長く、週の中頃に事前に送ってくださいました。先生のお部屋が待機部屋のお隣だったこともあり、先生の即興ピアノ演奏（前室にアップライトピアノがありました！）に招待いただき素敵な時間を過ごしました。

・Izsó さん：男性。ハンガリー語のみを話されるということですが、おそらくある程度の英語も理解しておられるような印象でした。小さな手で四苦八苦している私を優しく見守ってくださいました。

■注意事項

- ・ホワイトボードに使うマジック：汚れているため、きれいな手で使うと Izsó さんに注意されます。
- ・メス：頭部の皮膚切開と帽状腱膜上で剥離するときのみ使っていました。日本のメスとは違い、付け替え刃ではなく持ち手と一体型。ナイフと合わせて研いで使っていました。
- ・脳刀：日本の一般的なものと異なり、両刃です。気をつけてください。それ以外の臓器を切るときは、脳刀を使用してはいけないこととなっていますが、先生によっては普通に脳刀を使っている人もいます。
- ・はさみ：大きさは様々あり臓器によって細かく使い分けているような印象でした。日本の眼科剪刀は冠動脈剪刀と言われており、冠動脈や胆管、尿管、腎盂粘膜を切り開くのに使いました。
- ・ピンセット：特に胆管や冠動脈を開けるときには使用していましたが、使わない先生も多かった印象です。鉤付きと鉤なしの両方がありました。

■持ち物

- ・カメラ：参加者の誰かが少なくとも 1 台持って行ってください。首にかけられる紐がついていると良いかと思います。
- ・内履きの靴：シューズカバーは日本のものより薄くて頼りないです。捨ててもいい靴を 1 足持って行きましょう。
- ・アイシールド：何か持っていきましょう。使いまわせることが多いと思いますので、ひとまず 1 個あると安心かと思います。
- ・スクラブ：現地でも貸していただけますが、偏りがありそうです。特に男性用は白くてインナーが透けます。女性用は青色でやや厚めの生地でした。基本的に毎日交換・補充されているようでした。
- ・N95 マスク、サージカルキャップ、ガウン、手袋など：私のような心配な人は持っていきましょう。

ただ9回分となるとそこそこな量になるので荷物全体の量との相談がいるかと思います。手袋は解剖室にもあったのでそれを使っても良いのでは？と思いました。

・貴重品入れ：剖検中も貴重品は身につけましょう。ネックレスタイプやウエストポーチタイプを私たちは着けていました。

■ホテル (AKEAH Verdi Budapest)

・City hotel という印象でした。立地がとても良く、ホテル内も清潔でした。最寄りの駅は道挟んで向かいにありますし、大学は徒歩5分以内に着きます。

・フロントの方は英語で会話できますが、クリーナーさんはハンガリー語で押し切られました。

・私の場合、事前に日本で精算していることがチェックイン時もチェックアウト時もフロントの方に伝わっていませんでした。領収書はスマホの画面か紙で提示できるように準備しておいてください。

Budapest Pass の受け渡しについても同様でしたので、秘書さんとのやりとりのメールを提示しました。

・タオルの交換や掃除については海外のホテルなので時折不十分なことがありましたが、フロントに電話するとそこそこ迅速に対応してくれることが多かったです。

・私の部屋は遮光カーテンがついていましたが、閉め切ると部屋がやや暗く、ベッドボードの小さい照明の角度を調整して部屋の調光をしていました。

・ホテルの Wi-Fi は、普通に使う分にはスピードは問題ありませんでした。

・ハンガリーは水道水が飲めるようですが、私は怖くて飲めませんでした。部屋にはケトルがあったので、それで沸かして飲んでいる参加者もいました。

・クリーニングサービスはなさそうでした。

・シャワーブースにはシャンプーとシャワージェルのみありましたので、必要なものは日本から持ってきたほうが良いかと思います。

・日本のホテル同様、小さな冷蔵庫が部屋に備えてありました。飲み物を冷やしたり、フルーツやチーズを入れておけます。

・朝食はバイキング。料理の種類は多くないが無難な味付け。スイカは日本のものと同じような味でした。日によっては団体客で非常に混み合うので、食事を選ぶ前に席の確保をするのがベターかと思います。

■ホテル周辺

・SPAR というお店がホテルの中庭的なところを抜けたところにありました。大きめのコンビニ小さめのスーパー的な感じでした。お土産を選ぶには品数が少ないですが、ペットボトルの水や食事はあります。ペットボトルの水はホテルのフロントは割高なので急ぎでなければ外で調達した方が良いでしょう。

・ハンバーガー屋さんやパン屋さんが近くに何軒かありました。少し歩くとベトナム料理屋さんも何軒かあるようです。

・徒歩約15分でショッピングモール (Corvin Plaza)に行けます。良心的な価格の服屋さん (ZARA とか H&M みたいなイメージ)が複数あり、日本人も普通に着れるサイズ展開でした。地下には小さめのスー

パーもありました。

■観光、交通事情、その他

- ・Budapest Pass でメトロ、路面電車、バスが乗り放題でした。Google マップが乗り換え含めて道案内してくれたので、スムーズに移動できました。バスによっては車内温度が高めです。
- ・空港と市内を結ぶバスは別料金です。大きい荷物があるとタクシーの方が良さそうでした。
- ・空港と市内を結ぶタクシーは、帰りはホテルのフロントで手配してもらいました。空港と市内は場所によりますが、片道 30 ユーロか 9000 フォリント。カードでも支払えそうな雰囲気でしたが、私は現金で支払いました。
- ・日傘を使っている人は見かけませんでした。日焼け対策として帽子とサングラスがあると良いかと思っています。
- ・ハンガリーの治安自体は良いように感じました。女性 1 人で夜間歩いてもあまり怖くはありませんでしたが、海外なので貴重品の管理は気をつけていました。
- ・チップ文化がないようで、ほとんど現金は使いませんでした。しかし、中央市場では少額の買い物やお店によっては現金のみでしたので、少し手持ちがあった方が安心かとは思っています。

■個人的に持っていく方が良さそうなもの

- ・洗濯バッグ：ホテルの洗面ボウルは水が溜められない仕様＋浅いです。現地で洗濯することが想定される場合は洗剤に加えて持って行ったほうが良いかと思っています。
- ・アルファ化米やフリーズドライの味噌汁：ハンガリー料理は美味しかったのですが、週の途中で疲れ果てて日本食が恋しくなり、持って行ったアルファ化米とお味噌汁で晩御飯を済ませました。個人的には少しでも持っていくのをお勧めします。

■最後に

末筆になりましたが、このような貴重な研修に参加する機会をいただきまして、本当にありがとうございました。日本病理学会及び海外研修委員会の諸先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また快く研修への参加を後押しいただきました教授の梅北先生はじめ鳥取大学医学部病理学講座および附属病院の先生方、スタッフの皆様にも深く御礼申し上げます。研修中は Semmelweis 大学の先生方、スタッフの皆様にも多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。参加期間中、不自由なく快適に研修に集中できたのは、ひとえにご尽力いただきました皆様のおかげです。また、共に研修に参加者した中村先生、類家先生、そして吉田先生にも本当にお世話になりました、ありがとうございました。最後に、11 日間の研修に快く送り出してくれた夫と 2 歳の双子の娘たち、そして遠方から駆けつけて支えてくれた夫の母にも深く感謝の意を表します。